

I 概要

【内政】

- 1日 国内避難民に関するデータ発表
- 2, 4日 閣僚の交代
- 8日 国民解放軍 (ELN) によるテロ事件 (於: チョコ県シピ市)
- 11~21日 政府とコロンビア革命軍 (FARC) との和平交渉 (於: ハバナ)
- 12~30日 カタトゥンボ地方における農民によるストライキ
- 20日 国会の閉会

【外交】

- 4~6日 オルギン外相の第43回米州機構 (OAS) 総会出席 (於: グアテマラ)
- 6~7日 サントス大統領の英国訪問
- 9~11日 サントス大統領のイスラエル及びパレスチナ訪問
- 24~28日 ピンソン国防相のベルギー, 英国, フランス, スペイン訪問
- 24~27日 オルギン外相のペルー, ウルグアイ, アルゼンチン, チリ訪問

II 本文

【内政】

1 国内避難民に関するデータ発表

1日, 人権・国内避難民相談所 (NGO) は, 2012年, 256, 590名の国内避難民が発生した旨発表した。1985年からの累計は, 5, 701, 996名となる。また, 同 NGO は, コロンビア革命軍 (FARC), 国民解放軍 (ELN), 非合法武装勢力 (BACRIM) の活動が活発化している太平洋沿岸において, 国内避難民が多く発生しており, 太平洋岸に面しているカウカ, ナリニョ, バジエ, チョコ県で36. 1%を占めると述べた。それ以外の地域では, プトゥマヨ, アンティオキア, ノルテ・デ・サントアンデル県で多くの国内避難民が発生している。

2 閣僚の交代

2日, エストウピニャン農業・地方開発相が, また, 4日, エナオ住居・都市・国土相が就任した。エストウピニャン農業・地方開発相は, 予算編成や農業金融機関の清算を担当してきた実績がある。エナオ住居・都市・国土相は, 刑法, 特に経済刑法の専門家であり, サントス政権で最も若い閣僚 (33才) となった。

3 国民解放軍 (ELN) によるテロ事件 (於: チョコ県シピ市)

8日、ELN チェ・ゲバラ戦線は、チョコ県シピ市において、手榴弾を使用したテロ攻撃を行い、乳児1名が死亡、3名が負傷した。本年に入り、ELNによるテロ攻撃は10件となる。

4 政府とコロンビア革命軍（FARC）との和平交渉（於：ハバナ）

11～21日、ハバナにおいて、政府とコロンビア革命軍（FARC）は和平交渉を再開し、「紛争終結及び安定的持続的平和の構築のための一般合意」に基づき第2の議題である「政治参加」についての議論を開始した。交渉に先立ち、FARC側交渉団の1人である通称パリスは、「アイルランド方式」として、停戦には応じるものの武装解除せずに和平交渉を続ける旨主張したものの、政府は武装解除が和平実現の条件と主張しており、現時点での両者の見解には隔たりがある。次回会合は7月1日に開始する。

5 カタトゥンボ地方における農民による抗議行動

12～30日、ノルテ・デ・サントアンデル県カタトゥンボ地方において、コカ栽培の禁止を端緒とする農民約7,000名による抗議行動が激化した。農民らは、代替作物の提案なくしてコカ栽培を禁止されると生活の手段がなくなると主張、政府との対話を主張している。抗議活動において、これまでに4名の農民が死亡した。

6 国会の閉会

20日、国会が閉会した。今期国会において、承認された重要法案は、軍事司法制度、国民保険制度、在外選挙法、太平洋同盟枠組協定となっている。7月20日、次期国会が開会する予定。

【外交】

1 オルギン外相の第43回米州機構（OAS）総会出席（於：グアテマラ）

4～6日、オルギン外相は、グアテマラ（サカテペケ県アンティグア市）において開催された第43回OAS総会に出席し、麻薬問題に関する新たな政策等につき議論した。

2 サントス大統領の英国訪問

6～7日、サントス大統領は英国を訪問しキャメロン首相と会談したほか、チャールズ皇太子を表敬した。キャメロン首相との会談では、科学技術、教育、インフラ、及び開発につき議論したほか、サントス大統領より、コロンビアのOECD加盟及び和平交渉に関する英国からの支持に対し感謝の意を表明した。

3 サントス大統領のイスラエル及びパレスチナ訪問

10日～12日、サントス大統領は、オルギン外相と共にイスラエル及びパレスチナを訪問した。イスラエルにおいては、シモン・ペレス・イスラエル大統領と共に、両国貿易担当大臣による対イスラエルFTA交渉終了の共同宣言署名に立ち会ったほか、イスラエル・ボゴタ間の直行便の就航に関する協定、及び技術革新と起業に関する協定に署名した。

11日、サントス大統領はオルギン外相と共に、パレスチナ自治区の首都ラマッラーを訪れ、アッバース大統領とイスラエルとの和平交渉について会談したほか、エルサレムにおいて、ネタニヤフ・イスラエル首相と会談し、協力、科学、農業、安全保障、インテリジェンス、パレスチナとの和平交渉について意見交換した。

4 ピンソン国防相のベルギー、英国、フランス、スペイン訪問

(1) ベルギー及びEU(24日)

デ・クレム国防相と会談し、治安協力の強化について意見交換した。また、欧州議会議員らと会談し、軍事司法制度と人権について意見交換した。

(2) NATO本部(24、25日)

24日、ブリードラブ NATO 欧州連合軍最高司令官(SACEUR)と会談したほか、スペイン、イタリア、英国、米国、ノルウェー、オランダ、ポルトガル、フランスといった NATO 加盟国大使と意見交換をした。ピンソン国防相は、コロンビアとしては、NATO が有する和平、人道支援、軍事司法制度、部隊編成等のテーマに関する知見を活用する一方、麻薬、テロ、誘拐、脅迫、資金洗浄といった問題への対応について経験を共有することができる述べた。25日、ヴァーシュボウ NATO 事務次長と会談し、情報及びグッド・プラクティスを共有するための協力協定に署名した。

(3) フランス(26日)

ル・ドリアン国防相と会談し、市民の安全確保のための新たなイニシアティブについて意見交換した。

(4) 英国(27日)

ハモンド国防相、フレーザー外務事務次官と会談し、治安・国防戦略の成果共有、中米における協力の推進、人権問題等について意見交換した。

(5) スペイン(28日)

ピンソン国防相は、モレネス防衛相及びフェルナンデス内務相と会談し、インテリジェンスの共有や麻薬対策協力、市民の安全確保等について意見交換した。

5 オルギン外相のペルー、ウルグアイ、アルゼンチン、チリ訪問

(1) ペルー(24日)

リバス・ペルー外相との会談において、アンデス開発公社(CAF)を活用した国境地域開発計画に合意した。また、最近ペルーにおいて創設されたコロンビア企業評議会(CEC)を含めた両国に関連する企業幹部と意見交換した。

(2) ウルグアイ(25日)

アルマグロ・ウルグアイ外相との会談において、政治対話の深化のほか、経済・技術・文化・スポーツ分野での協力の進展につき意見交換した。

(3) アルゼンチン(26日)

ティメルマン・アルゼンチン外相との会談において、地域統合メカニズムについて意見交換し、協力分野での覚書に署名した。また、両国の企業家と意見交換したほか、在ブエノスアイレス総領事館の開設式に出席した。

(4) チリ (27日)

モレノ・チリ外相とともに、戦略的連携評議会を立ち上げ、在外公館の共有や太平洋同盟、人の移動の自由化、文化財の違法取引の回避方法といった多岐にわたる政治・経済・文化・協力分野に関して意見交換した。 (了)